

32 年ぶりの円安水準を記録、1990 年はどんな年？

10 月 21 日の外国為替市場、円相場が 1 ドル=151 円台に下げ、1990 年以来 32 年ぶりの円安・ドル高水準を更新しました。2022 年 1 月に 1 ドル 115 円前後で推移していた円相場は、この 10 カ月で 30 円以上も円安に動いた格好となります。

1 年も経たずに急速に進行した円安は、原油・原材料価格の上昇とあいまって企業には大きな痛手となっています。販売価格への転嫁や燃料費の節約などの対応を進めていますが、一部を除き円安の影響は、多くの企業にとって依然として悪影響となっています。

また、それにともない私たちの生活に欠かせない必需品や食料品などの値上げも相次いでおり、先行き不透明感が漂うなか、消費者にとっても厳しい年末を迎えそうです。

さて、冒頭述べた「32 年ぶりの円安」ですが、30 年以上前になり、覚えていないこともあると思います。私自身まだ物心が付く前になりますので、1990 年（平成 2 年）はどのような年であったのか、振り返ってみたいと思います。書き出してみますと、今とは異なる世相が見えてきました。

当時の日本経済は、バブル経済崩壊の直前であったため危うさを感じながらも、社会全体はまだまだ明るさや勢いといった前向きな世相だったのではないのでしょうか。

1990 年の世相を映すユーキャン新語・流行語大賞では、流行語部門・金賞に「ちびまる子ちゃん（現象）」が選ばれ、B.B. キーネズが歌った主題歌「おどるポンポコリン」は大ヒット曲となりました。流行語部門・銀賞は「バブル経済」が選ばれているものの、一般的には浮かれる日本人を映し出した結果と言えそうです。

1990 年の主な出来事を振り返ると、1 月は第 1 回大学入試センター試験が実施され、団塊ジュニア世代を中心に受験競争が盛んになっていました。2 月は平成初の衆議院総選挙が行われ、自民党が安定多数の議席を獲得しています。

3 月はバブル崩壊の引き金の一つと言われる「不動産融資総量規制」という通達が大蔵省（当時）より発せられ、土地取引に流れる融資の伸びを抑え過剰な取り引きを抑える役割を担っていました。

8 月になると、イラクがクウェートへ侵攻し、テレビを通してですが、日本にとっても武力衝突を身近に感じた出来事となったようです。2022 年 2 月から起きているウクライナ侵攻と通じる部分があるのかもしれません。

10 月は東西ドイツの統一、12 月には日本人初の宇宙飛行（TBS の秋山氏）が実現、また年間の海外渡航者が 1,000 万人を突破するなど明るい話題も並びました。

当コラムの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および転載を固く禁じます。

TDB**主観・客観**TDB 景気動向調査 (URL <https://www.tdb-di.com>)

2022 年は急速に進んだ円安による原材料などの価格高騰は、企業活動や国民生活への悪影響が目立っており、どちらかと言えば活気の少ない雰囲気が見受けられます。32 年前の 1990 年も土地の高騰を中心に諸問題が生じていました。しかし世間では、あの大ヒット曲のようにピーヒャラ♪とまだまだ元気で浮かれた様子も随所で見られていたことでしょう。

(池田直紀)

当コラムの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および転載を固く禁じます。